

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 29 日 (2007.3.29)

【公開番号】特開 2006-183700 (P2006-183700A)
 【公開日】平成 18 年 7 月 13 日 (2006.7.13)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-027
 【出願番号】特願 2004-375302 (P2004-375302)
 【国際特許分類】

F 1 6 L 55/00 (2006.01)

【F I】

F 1 6 L 55/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 2 日 (2007.2.2)

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 2】

原子炉には格納容器のサプレッションチェンバに蒸気や水を逃がすベント管が設けられている。ベント管（ベント配管）は開口部に配管カバーが配置されている。配管カバーはベント配管開口部の周方向に沿って設けられている複数本の既設プレートの脚により固定支持されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 3】

ベント管の開口部は、原子炉運転時には蒸気や水を逃がすため開放状態になっている。しかし、原子炉定検時には異物混入を防止するためにベント管開口部を蓋することが必要となる。従来は配管カバーの上からクロス材および鋼材板でベント管を覆い、ベント管開口部の若干下側におけるベント管外側面でクロス材にバンドを掛けてベント管開口部を蓋するようにしている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

従来技術は配管カバーの上からクロス材および鋼材板でベント管を覆い、クロス材にバンドを掛けてベント管開口部を蓋するようにしている。作業員は重装備で狭隘場所に入り作業を行うことになり、1 本のベント管に蓋をする作業時間が 20 分程度要している。一方、格納容器内の許容作業時間は放射線防護服を着用しても最大 40 分程度とされている。原子炉の型式によっては 100 本以上のベント管に蓋をすることが必要になる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

具体的には、クロス材を固着された可撓性線材を捻り元の円形より小さな円形に折畳んだ蓋体をベント管の既設プレート脚の間からベント管開口部に挿着し、可撓性線材の復元力によってベント管開口部に蓋体を装着する。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

蓋体は円形状の可撓性線材に円形クロス材を固着して形成され、可撓性線材を捻り元の円形より小さな円形に折畳み自在になっている。蓋体をベント管の既設（屋根型）プレート脚の間からベント管開口部に挿着し、可撓性線材の復元力によってベント管開口部に装着する。可撓性線材は複数のリボン状係止具を備えている。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

1 ... 蓋体、2 ... 可撓性線材、3 ... クロス材、4 ... バイヤス材、5 ... リボン状係止具、6 ... 原子炉格納容器、7 ... 原子炉配管、8 ... ベント管、8 a ... ベント管開口部、9 ... サプレッションチェンバ、10 ... カバー、11 ... 既設プレート脚。